

北九州市長 武 内 和 久 様

2025 年9月9日

日本共産党北九州市会議員団

団 長 荒 川 徹
副団長 高 橋 都
幹事長 山 内 涼 成
政調会長 大 石 正 信
議 員 伊 藤 淳 一
議 員 永 井 佑
議 員 宇 土 浩一郎

北九州市でのオスプレイ飛行の中止を求める申し入れ

防衛省は、8月12日 木更津駐屯地から佐賀空港に全17機のオスプレイ（V-22）の配備を完了しました。防衛省は、わが党の田村貴昭衆議院議員の質問主意書に対する6月27日の答弁書で、陸自のオスプレイの低空飛行訓練を九州7県85か所で「実施する可能性はある」と明らかにしました。

オスプレイは、2023年11月に鹿児島県・屋久島沖で墜落8名全員が死亡する重大事故を起こしたのに続いて、昨年10月には沖縄県・与那国駐屯地で訓練中に機体損壊事故を起こしています。相次ぐ事故により「オスプレイは欠陥機である」と指摘されています。未だに事故の原因が明らかにされていないにもかかわらず、アメリカとともに日本はオスプレイを正式に運用しています。

北九州市では、住宅地周辺の小倉駐屯地、曽根訓練所、富野弾薬庫上空での夜間飛行や高度300m以下の低空飛行訓練が計画され、隣接する空自芦屋基地・空自築城基地は佐賀空港との飛行慣熟訓練ルートとされています。防衛省は「住宅地、市街地や病院等の上空の飛行は制限する」と言いながら、「最終判断はパイロットの判断に委ねられる」としており、墜落の危険性や騒音・低周波被害による市民の生命財産及び安心・安全が大きく損なわれることが懸念されます。

よって、本市として、政府・防衛省に対して次のように要請していただくよう申し入れるものです。

記

1 北九州市でのオスプレイ飛行は中止すること

以上